

口腔感染治療学特論

Advanced Course of Oral Infectious Diseases

キーワード

- ① 微生物学
- ② 免疫学
- ③ 口腔感染症
- ④ 歯周病
- ⑤ う蝕

授業概要

う蝕と歯周病に対する予防法と治療法のために細菌の病因を理解する。口腔内細菌による感染症としてう蝕と歯周病があり、その発症と進展に関わる細菌の病原性について講義を行う。具体的には、う蝕原性細菌である *Streptococcus mutans* の病原因子について講義を行う。また、歯周病原細菌である *Porphyromonas gingivalis* の病原性性状と歯周病原細菌の歯周病に対する生体防御機構と歯周病原細菌の生体からの回避についても講義する。さらに、微生物学および免疫学的研究について最新の論文を解説しゼミ形式の講義を行う。

授業科目の学修目標

口腔疾患の予防には、口腔内細菌数のコントロールが重要である。う蝕は、う蝕原性細菌、食物、宿主（歯）が関連しあう多因子疾患である。特に、細菌の歯面への付着性が重要である。硬組織への定着機序について理解することは、う蝕予防法を考えるうえで不可欠である。歯周病においても特定細菌種の歯肉溝への定着と病原因子の理解が必要である。本科目では、口腔感染症発症の予防と治療の知識を修得することを目標とする。

授業計画

- ① 口腔感染症の意義と口腔感染治療学の基本
 - ・口腔感染症の歴史 2コマ 浜田信城
 - ・口腔感染治療学の基本 8コマ 浜田信城
- ② 日本細菌学会における倫理規範と検体の取り扱い方の基本 4コマ 浜田信城
- ③ 口腔感染治療学の研究論
 - ・細菌と生体の応答 4コマ 浜田信城
 - ・細菌の病原因子と生体との関わり 10コマ 浜田信城
 - ・歯周病の理論 2コマ 浜田信城

教科書および参考書

口腔微生物学 ―感染と免疫― 第3版(学建書院) 小川和彦 他編著
戸田新細菌学 第33版(南山堂) 吉田眞一、柳 雄介、吉開泰信 編
Oral Microbiology and Immunology (American Society for Microbiology): Lamont et al.

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

歯周病原細菌に関連する論文を熟読し、概要の理解が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 微生物学の意義を理解し口腔疾患を説明できる。
- ② 細菌学研究領域における倫理規範を理解し応用することができる。
- ③ 微生物学の研究論を理解し実践することができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
40%	0%	40%	0%	0%	20%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回40%
- ・レポートは、授業項目の内容について課題を提出する。8%×5回=40%
- ・口頭試問は、授業終了後に行い知識の理解度を判定する。2%×10回=20%

理想的な達成レベルの目安

口腔感染治療学特論の理想的な達成レベルは80%以上とする。特に、倫理的な理解に関しては100%を求める。